

(別紙2)

インターネットでの情報提供	
提供予定日	3 / 6

平成18年3月6日 多治見市政記者クラブにて資料配付			
担当機関	担当課	担当者	電話番号(内線)
セラミックス技術研究所	技術支援部	鶴見栄三	0572-22-5381

事項	「精炔器」による上質な生活の提案展を開催
内容	<p>実施日...平成18年3月10日(金)~3月26日(日) 場 所...市之倉さかづき美術館 ギャラリー「宙」 〒507-5122 多治見市市之倉町6-30-1 TEL 0572-24-5911</p> <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 展示会名...美濃のアール・デコ「精炔器」展Vol.2・ 趣 旨...製陶技術・技法の変化や廃絶が激しい美濃焼産地で、昭和初期に創製されながら、高度経済成長時代に生産が途絶えた工芸的な焼物「精炔器(せいせつき)」による新作展示会が、昨年に引き続き[精せつき研究会(窯元：6社)]により開催される。創製時の高品位な製品特性に近づくため、平成17年度は成形および描画技術の向上を目標に研鑽をかさねた。ディスプレイは精炔器のある生活シーンを消費者に具体的に感じてもらい、かつ上質な生活提案の視点から市内在住のテーブルコーディネータと高山市の家具工房の協力を得て行う。古くて新しい焼物の認知向上を目指し、家具を含めて作品の即売を行う。・ 出展品...花器/照明具/飾り皿などインテリア用品、コーヒー碗皿/各種皿や鉢/酒器など飲食器 計約200点。その他、食卓/椅子・ 入場料...無料 <p>その他 [精炔器]について</p> <p>1928年に駄知町の昭和製陶所で創製され、地元産出の未利用粘土の活用が開発の契機であった。1935年頃、県陶磁器試験場(現セラミックス技術研究所)で 初期釉薬の改善/素地供給体制の整備/デザイン開発 などを行い、精炔器と名付けて業界に普及を図った。参考品製作には後の人間国宝、技師：加藤一(土師萌)らが尽力した。美濃焼の主要産品の一つであったが、生産の自動化に馴染まず1970年代半ばで生産が途絶えた。2000年に精せつき研究会が生産を復活させ、2002年に県郷土工芸品に指定された。</p>